北部タイ高地における帰化雑草 *Eupatorium adenophorum*の分布 域の拡大（続報）

○原田二郎（福井県立大）・S. ズングソンティポー・B. ソン
ブラソン・P. トリブーン（タイ農業局）・Y. パイスクサ
ンティワタナ（カセサート大）

E. adenophorum SPRENG.〔異名：*Ageratia adenophora* (SPRENG.) KING et ROBINS
はメキシコ原産のキク科の植物で、北アメリカ、アフリカ、アジア、オセアニアなど
世界の温帯～熱帯に分布し、タイ国ではsaap maaと称され、北部タイの高地に分布す
る。荒地、路傍、林縁など日当たりの良い所に好んで群生し、畑地、樹園地、牧草地
などの農耕地に侵入した場合は防除の極めて困難な強害雑草となる。また、植物体は
もむと悪臭を放ち、家畜に中毒を引き起こすこと、強いアレロパシーを示すことが知
られている。このアレロパシーに起因し、本種が焼畑跡地に侵入した場合は、純群落
を形成して遷移をストップさせ、植林による森林修復にも大きな問題となっている。

著者らは、1985年 5月から 3カ年にわたりタイ国全土の雑草の分布を調査してきた
が、*E. adenophorum*については、北部タイ以外の高地では分布は確認されず北部タイ
高地においてもチェンマイ、チェンライ、メーホンソン、ランパン各県などの北西部
の標高800m以上の高地に分布域が限られ、ナン、プレー、ピサヌロック、ペチャブ
ン各県などの東部やターク県では分布が確認できなかったことを報告した（原田ら 199
0 雑草研究 35: 185～188）。また、このような分布のかたよりは、本種の開花期が
2月～7月にあたり、その時期の風向が主に南風であることから、最初北部タイに帰
化した本草種の種子が風に乗って北へ急速に分布域を拡大したためと結論づけた。し
たがって、本種の東部や南部への分布域の拡大はかなり遅いものと考えた。

しかし、最初の調査から既に十数年が経過し、種子の人為的な移動の可能性も考え
られるため、北部タイの調査の際には本種の分布に注意を払って観察を行ってきた。
その結果、2000年 7月にこれまで分布が確認されなかったターク県の105号線と1号
線を結ぶ1175号線沿い（図1①）で本種の分布が確認され前回報告した。その後、20
01年 3月にチェンライ県のラオスとの国境の山地（図1②）で、8月にターク県ウン
パンの1090号線沿い（図1③）で、12月にはナン県のボークルアからプアに向う1256
号線沿い（図1④）で、相次いで新たな分布地が見出され、明らかに分布域を拡大し
ていることが確認された。

これらの分布地はいずれも高標高地で、2月～4月に開花することが確認されてお
り、さらに付近には種子から発生した個体も見出されることから（図2）、この点が
分布域の拡大と定着に必須な条件と考えられる。

Harada, J., S. Zungsontiporn, B. Somprasong, P. Tribun and Y. Paisooksantivatana:
Further survey on the distribution of *Eupatorium adenophorum* in the highlands
of northern Thailand.

図1 北部タイにおける *E. adenophorum* の分布

●1985～1987年調査

新たな分布地

- ① Ban Tak～Maeramad(R1175): N17 08978 E098 83897 A932m～
N17 12020 E098 81329 A781m
- ② Mt. Phu Chee Fah: N19 84880 E100 45750 A1636m
- ③ Umphang, Tak(R1090): N16 23625 E098 97460 A1119m
- ④ Bo Klua～Pua(R1256): N19 14705 E101 15886 A760m～
N19 17340 E101 17340 A1709m～
N19 18432 E101 00439 A654m

図2 種子から発生した *E. adenophorum* (分布地③)